

令和5年度自己点検・自己評価調査結果

1. 自己点検・自己評価の目的

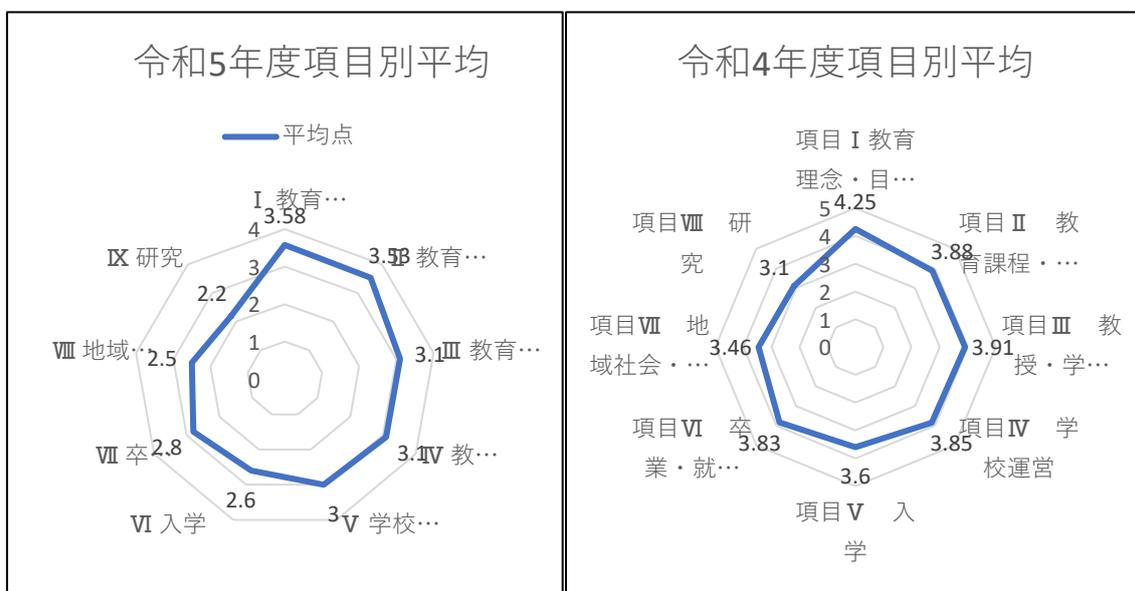
JA 北海道厚生連旭川厚生看護専門学校の教育理念に沿った教育水準の向上を図り、外部からの意見を聴取し、今後の学校運営に寄与することを目的とする。

2. 令和5年度自己点検・自己評価

1) 方法

厚労省の指針に基づいて、令和5年度（2023年度）2月に自己点検・自己評価を実施しました。評価は4段階評価とし「当てはまる」を4、「やや当てはまる」を3、「あまり当てはまらない」を2、「当てはまらない」を1として得点化しました。

2) 結果



2023年度	カテゴリー	項目数	平均点
I	教育理念・目的	5	3.58
II	教育目標	3	3.53
III	教育課程・教育活動	18	3.1
IV	教授・学習・評価課程	11	3.1
V	学校運営	18	3
VI	入学	2	2.6
VII	卒業・就職・進学	4	2.8
VIII	地域社会・国際交流	5	2.5
IX	研究	1	2.2

令和5年度の全体平均点は、3.30点(3.12)であった。平均点より低値であったカテゴリーは7つあり、平均点が3点未満のカテゴリーは4つであった。

令和5年度の重点課題として以下の4点を挙げていた

(1)教育を行っていく上で、授業準備体制・相互研鑽できることは重要である。業務改善を行い教員と教務事務と連携協働し教員が授業準備の時間が確保し教育活動を行えるように改善を行っていく。

(2) 教授・学習・評価課程においてシラバスの評価、計画についての全体討議・共有など教員間の連携と共通理解を行っていく。

(3)卒業生の状況を追跡把握し、教育課程に反映できるように改善していく。

また、教育課程評価ができるように委員会を機能させ検討していく。

(4) 地域へ広く本校を知っていただける機会が持てるように地域交流のイベントを企画したり、ボランティア参加をおこなっていく。

(1)について、カテゴリーⅢ教育課程 教育活動で平均点より低かった項目は7項目あり、Ⅲ-12「教員が授業準備のための時間をとれる体制を整えている。」の項目が最も低かった。これについては、各教員の授業時間、実習担当等について割り当てをしているが長期病欠者等があり授業時間の変更などにより業務改善委員会で働きやすい職場環境という点で検討課題としたが、具体的な解決には至っていない。各教員の業務量の把握と授業準備が可能な時間の確保や環境の提供について次年度課題となる。

(2)については、Ⅳ-3「授業科目の重複や整合性、発展性などが表記されている。」(2.8点)

Ⅳ-7「学習への動機づけと支援のためにシラバスと便覧を活用し、教員間で共有し養成所全体で協力し行っている。」(2.9点)

Ⅳ-9「授業評価をもとに改善している。」(2.7点)

Ⅳ-10「学生および教育活動を評価するための方法を取り入れ、目標達成状況を把握している。」(2.6点)

・シラバス(授業科目の履修目的・概要)については、年に1回見直し内容の整合性等を検討し、授業評価委員会の活動も行い、少しずつ質の向上に努めているところであるが授業評価が定期的に実施され、評価内容からよりよい授業へつなげることが重要であると考ええる。また、カリキュラム評価委員会が機能し具体的にカリキュラム評価を行うことが課題である。

(3)卒業生の状況追跡把握については、自己点検・自己評価委員会で対象期、追跡調査内容について検討したが実施には至らなかった。次年度は早期にプレテストを行い、実施できるよう取り組む計画である。

(4)地域貢献や広報については、Ⅷ-1「地域のニーズを把握し、地域社会への貢献を組織的に行っている。」(2.3点)、Ⅷ-2「養成所の教育活動について地域社会のニーズを把握し発信している。」(2.3点)Ⅷ-5「国際的な視野を広げるための自己学習に適した環境を整えている。」(2.1点)

前年度のような地域イベントへの参加の機会がなかったものの、出身校からの依頼により

ボランティア活動を行った学生が数名いた。

また、広報活動については、新カリの授業や地域実習等について本部インスタグラムを活用しHPなどで発信している。

国際交流については、国際看護の科目があり、海外協力隊での活動経験のある卒業生の授業を組み入れている。また医療英語としてR6年度に科目立てしている。海外と交流が行えるシステム作りはないがコミュニティデザインの科目で異文化交流が行える機会もあり、地域密着とした学習環境は整っている。国際交流の場を広げられると今後の看護に役に立つものと考ええる。

今年度、学校関係者（厚生連実習先看護部長、1単位以上の授業を持つ非常勤講師5名）からの自己点検・自己評価の結果についてご意見をいただいた。

IV教授・学習・評価課程 について 外部講師とも授業内容の打合せや評価のフィードバックが行われると授業の質の向上につながると考える。

V学校運営において、V-5「決定事項は、組織構成員の意思が反映されるよう、説明周知されている。」(2.5点) V-12「関係者（保護者等）への情報提供は関係者から協力・支援を得ることに繋げている。」(2.5点) が平均より低値であり、学校運営会議などの内容の周知共有が不足な点があり、早期な改善が必要ではないかというご意見もあり、教員会議等で報告伝達の改善を行いたいと考える。

VI入学、VII卒業・就職・進学について、学生を確保するという教員の姿勢、思い、熱意が高校側に伝わっていない。旭川以外の看護学校は中学生対象の体験学習を始めている。オープンキャンパスだけでなく、学校から出向くことも必要ではないか。就職に向けての支援が不足しているように思う。履歴書をはじめ書類の不備、書き方など他校との差が著しい。国家試験対策について、1年次から学習支援と国家試験対策は行ってほしい。学業習熟の状態や実習態度学生生活の様子など情報が不足。などのご意見をいただいた。

今回の結果と、ご意見を参考に次年度下記の重点課題としたい。

3) 令和6年度重点課題

(1) 教員の質の向上と教育力の向上

教員間の連携を図り、学校の業務、講義、演習など授業評価等を活用し互いに学び合う

(2) 健全な学校運営の実施

自己点検・自己評価・学校関係者評価の充実

積極的な学生募集活動の実施、市内高校への授業

教務内の情報共有と連携

業務の効率化の推進

(3) 厚生連地域医療に貢献できる人材の育成

卒業生の動向調査の実施し教育課程の評価の実施

学習支援活動の充実